

Express5800/R32Ba-E2 ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠におそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) システム ROM の機能に関する注意事項
- 3) iLO 6 の機能に関する注意事項
- 4) OS に関する注意事項
- 5) 全般の機能に関わる注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下のWebサイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

ご購入頂いた型番で、製品マニュアルをご検索ください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<https://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

● Starter Pack について

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

本体装置購入時に合わせて購入されていない場合はダウンロードして適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

なお、使用する StarterPack については、別途 Web 公開している「OS と Starter Pack の対応」を参照ください。

2) システム ROM の機能に関する注意事項

● 「Memory Initialization - Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、「Memory Initialization - Start」のメッセージで、まれにPOST 停止することがあります。本現象発生時は、以下の手順で復旧してください。

1. 本体前面の電源スイッチ(または、iLO のWeb インターフェースにあるPower アイコン)を4秒以上長押しして、本体装置の電源をオフにします。
2. 本体前面の電源スイッチ(または、iLO のWeb インターフェースにあるPower アイコン)を押して、本体装置の電源をオンにした後、正常に起動する事を確認してください。

現象発生時の POST メッセージ

```
NEC Express System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
System Chipset initialization
UPI Link initialization - Start
UPI Link initialization - Complete
Early Processor initialization
Memory initialization - Start
```

上記復旧手順を実施しても復旧しない場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。

● Intel (R) Quick Assist Technologyについて

以下のCPUを搭載したシステムにおいて、v1.46 (09/26/2023) のシステムROMバージョンを使用している場合、CPU2側のQuick Assist Technology機能は利用できません。

対象CPU:

N8801-063 CPUボード(8C/2.90GHz/Gold 5415+)
N8801-063L CPUボード(8C/2.90GHz/Gold 5415+)

Quick Assist Technology機能を利用するためには、システムROMをv2.16 (03/01/2024)以降にアップデートする必要があります。

● PCIe SlotのLink Speed設定について

下記のPCIe SlotについてPCIe Link Speed (*1)を変更してもLink Speedに反映されません。常に最大Link Speedで動作します。

R32Ba-E2 : PCIe Slot 4/5/6

(*1) PCIe Link Speed 設定メニュー

BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > PCIe Slot X : "Device 名" > PCIe Link Speed : **【Auto】** / PCIe Generation 1.0 / PCIe Generation 2.0 / PCIe Generation 3.0

PCIe Slot X : R32Ba-E2 はPCIe Slot 4/5/6

"Device 名" : 実装されるPCIe Deviceによって表示が変わります。

PCIe Link Speed : デフォルト設定は[Auto]です。設定変更は行わないでください。

実装されるPCIe Deviceによって、選択可能なPCIe Generation 1.0/2.0/3.0は変わります。

将来のシステム ROM で修正される予定です。

● View IMLに関する注意事項

次の条件を満たしたシステムにおいて、システムユーティリティのView IML機能(*1)は使用しないでください。

- ・ システム ROM v2.16 (03/01/2024) 未満
- かつ
- ・ RAID コントローラ (N8803-055/055L/056/056L) を搭載 (Firmware Version 5.61)

上記条件を満たした状態でView IML 機能を使用すると、RSoD (Red Screen of Death)が発生します。

そのため、IML ログを表示する場合は、iLO Web インターフェース(*2)を使用してください。

なお、RSoD が発生した場合には、システムの復旧のために電源を Off/On にする必要があります。

(*1) System Utilities > Embedded Applications > Integrated Management Log (IML)

(*2) iLO Webインターフェース : [Information] - [Integrated Management Log]

3) iLO 6 の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動からOSの起動完了までの間POST実行中も含みます)は、iLOの再起動を行わないでください。

また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

たとえばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)が正常に動作しない場合や、本体装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。また、POST実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェース : [Information] - [Overview] ページにおけるUUID、UUID (論理) が不正な表示になる場合があります。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞

- ・ iLO Webインターフェースなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- ・ UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。


● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項

iLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy]の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、iLOに対して永続的な変更が行われるため、『Permanently disallow downgrades』に設定後は、iLOの各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。

なお、本設定はSet to factory defaultsオプションからiLOを出荷時のデフォルト設定にリセットを行った場合においても、リセットされず『Permanently disallow downgrades』を維持します。

● iLO Webインターフェースのセキュリティアイコンに関する注意事項

iLO Webインターフェースの[Information] - [Security Dashboard]およびiLO Webインターフェース画面の右上部に  リスクが表示される場合があります。

RBSUの設定やiLOの設定の内容によって、iLOセキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 6ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「iLO Webインターフェースの[ホスト認証が必要]設定における注意事項」に記載がありますので、ご確認ください。

iLOの負荷の状態により[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Webインターフェース画面の右上部の”iLOセキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● iLOの時刻設定について

iLOの時刻設定は、iLO WebインターフェースにてSNTPの設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。

iLOのSNTPの設定方法については、iLO 6ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO Webインターフェースの[ホスト認証が必要]設定における注意事項

[Security] - [Access Setting] - [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定しないでください。

『有効』に設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・ ESMPRO/ServerManager のアラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出” のメッセージが多数表示されます。
- ・ Starter Pack (Standard Program Package) を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・ エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・ RAID 通報サービス
- ・ サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・ iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

NIST SP800-193 運用環境を構築される場合は、以下の URL に掲載された運用手引きを参照し、OS 環境構築後、『有効』に設定するようにしてください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=3140109677>

→ 「NIST SP 800-193 準拠 運用構築手引き」

● ネットワークブリッジ構成時のiLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成してご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● RESTful API ERRORが発生した場合の対処について

POST実行中、稀にRESTful API Errorが発生し、Integrated Management Log (IML)に記録されることがありますが、iLOリセットを行うことで復旧できます。

問題が解決しない場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。

● iLO WebインターフェースのAgentless Management Service (AMS) のステータスについて

iLO Web インターフェースの[System Information] - [Summary] - [Subsystem and Devices]のAgentless Management Service (AMS) のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※と表示された場合、iLO リセットを行ってください。また、その後、10 分程度経過した後、以下のAgentless Management Service (AMS) の再起動方法の対象 OS を参考に、Agentless Management Service (AMS) を再起動してください。

※ Agentless Management Service (AMS) のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Web インターフェースの[System Information] - [Storage] や [Network] の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

< Agentless Management Service (AMS) の再起動方法 >

- ・ Windows の場合

Windows の管理ツール → サービス → “Agentless Management Service” を右クリックし、再起動してください。

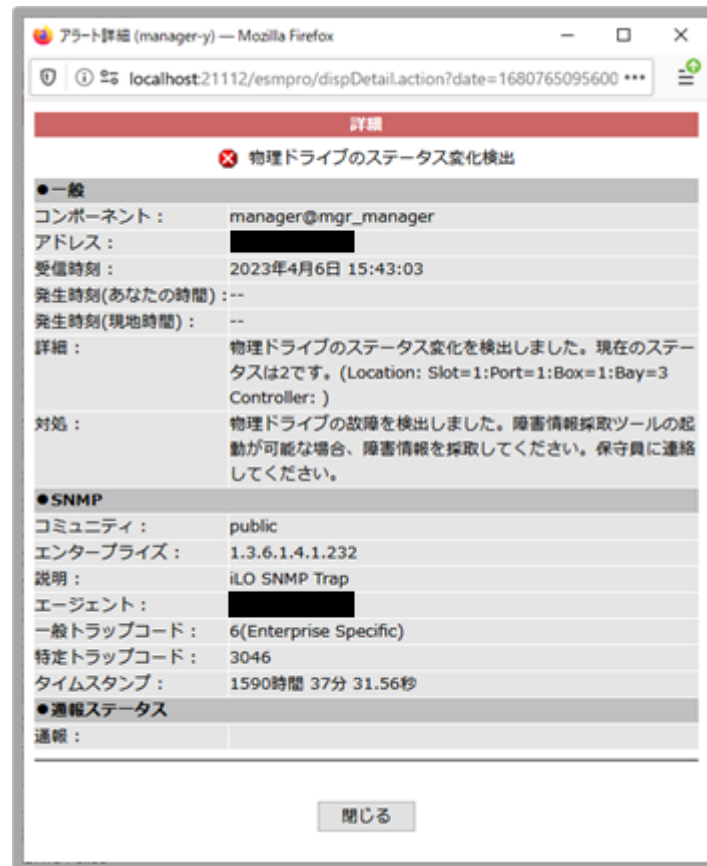
- ・ Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 8.x/ 9.x の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad  
# systemctl restart amsd
```

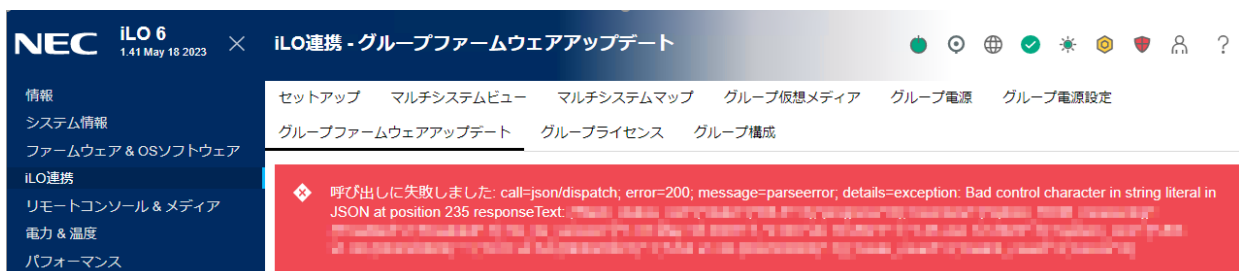
● 通報に関する注意事項について

- ・ 論理ドライブを構成した物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障のエクスペレス通報が通知されません。ESMPRO/ServerManagerアラートビューアにおいて、「物理ドライブのステータス変化検出」が通知されますが、詳細欄のステータス値が「3」ではなく、「2」が表示されます。
※ステータス値の「2」は正常(OK)、「3」は異常(failed)を示します。



● iLO連携グループ ファームウェア アップデート機能が利用できない件について

以下のメッセージが表示され、利用できません。



文章と画像は将来変更の可能性があります。

● RAID コントローラ (SR) 構成時の RESTful API での RAID コントローラ情報に関する注意事項

iL06 ファームウェアバージョン 1.64 以降をご使用の場合：

下記の RAID コントローラ (SR) に特定のファームウェアが適用されている場合、iLO RESTful API で下記の Redfish リソース情報を取得すると、返却される JSON データ中の PCIeFunctions 配列内の @odata.id に正しいリンク情報が表示されずエラーを示す "F0" が表示され、RAID コントローラに関する PCI 機能の参照ができません。

RAID コントローラの PCI 機能を確認したい場合は、Smart Storage Administrator から PCI 機能を参照してください。

■ 対象 RAID カードおよび RAID ファームウェアバージョン

N8803-057/058L : RAID ファームウェアバージョン 03.01.30.106

N8803-058/058L : RAID ファームウェアバージョン 03.01.30.106

■ 対象 Redfish リソース

/redfish/v1/systms/1/storage/{controller ID}/controllers/0

■ 返却される JSON データ (該当箇所)

```
"PCIeFunctions": [  
  {  
    "@odata.id": "F0"  
  }  
],
```

● 仮想シリアルコンソールに関する注意事項

iL06 ファームウェアバージョン 1.64 以降をご使用の場合：

仮想シリアルポートログ over CLI 設定を有効にした後、SMASH-CLP からテキストベースの仮想シリアルコンソールを起動しても何も表示されません。

■ 仮想シリアルコンソール起動コマンド

vsp または start /system1/oemNEC_vsp1

仮想シリアルポートログ over CLI を無効から有効に設定変更後、仮想シリアルコンソールに何も表示されなく なった場合、BMC 構成ユーティリティより [工場出荷時のデフォルトにセット] を実施してください。

4) OS に関する注意事項

● N8801-063/063L CPU ボード搭載時の RHEL 環境での Intel (R) Quick Assist Technology (QAT) についての注意事項

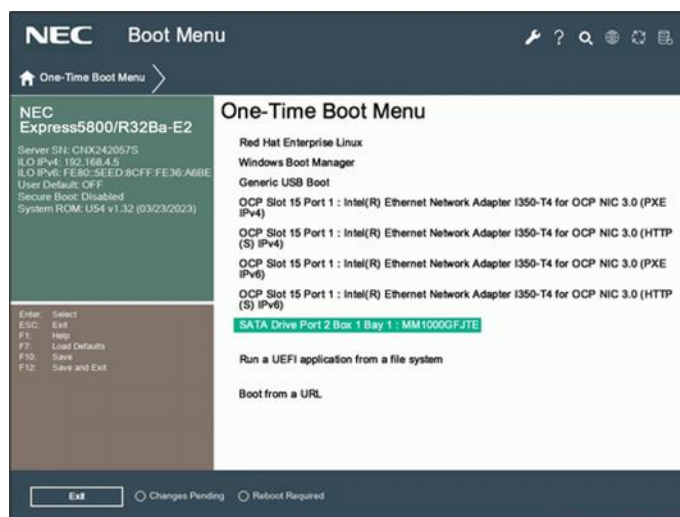
N8801-063/063L CPU ボードを搭載した装置に RHEL をインストールすると、起動のたびに QAT の firmware の適用を促す下記のイベントがメッセージに登録される場合がありますが、無視してご使用ください。

例:

```
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Direct firmware load for qat_4xxx_mmp.bin failed with error -2
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Failed to load MMP firmware qat_4xxx_mmp.bin
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Failed to load acceleration FW
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Resetting device qat_dev0
```

● Red Hat (R) Enterprise Linux (R) を使用する場合の注意事項

- ・ OS が自動的に認識する LOM やオプション NIC のデバイス名を使用してください。独自 udev ルールを追加する際、PCI アドレスを基準に NIC デバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。
また、PCI アドレスを含む/dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。
- ・ PCI アドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCI スロットへのカード増設/抜去、および、CPU 構成変更を行わないでください。PCI バスのアドレス情報が変化し、PCI 接続のデバイス名に影響がでることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。
- ・ ワンタイムブートメニューから起動する場合、OS ブートマネージャー(例: Red Hat (R) Enterprise Linux (R))を選択してください。
OS がインストールされた HDD や SSD などのブートデバイスを選択しても OS ブートできません。



ワンタイムブートメニュー画面

● Red Hat (R) Enterprise Linux (R) 起動時の syslog に PCI 関係のメッセージが記録される

Red Hat (R) Enterprise Linux (R) 8 起動時の syslog に PCI 関係のメッセージが記録される場合があります。

```
kernel: pcieport 0000:00:0c.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:0c.0: PCI INT A: not connected
kernel: pcieport 0000:00:0f.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:0f.0: PCI INT A: not connected
kernel: pcieport 0000:00:10.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:10.0: PCI INT A: not connected
```

PCI-Express からの割り込み処理の割り当てができない事を示すメッセージです。

当該機種では、メッセージが示す PCI デバイスは未接続のものであり、動作に影響はありません。

● OS 起動時に検出されるネットワークポートやファイバーチャネルポートの接続エラーについて

OS 起動時に Agentless Management Service (AMS/smad) や ESMPRO/ServerAgentService のサービスが開始されたときに、これらのサービスによってネットワークポートやファイバーチャネルの接続エラー(Link Failure)のメッセージが記録される場合があります。

これらのメッセージは装置の再起動中に発生した一時的な接続状態の遷移を iLO によってイベント検知されたことによるものです。これらのメッセージは無視して問題はありません。

5) 全般の機能に関わる注意事項

● サーバ診断カルテについて

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack 内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

サーバ診断カルテの最新の情報および注意事項、制限事項については下記の Web サイトをご確認ください。

サーバ診断カルテは最新版を使用することを推奨します。

■Windows 対応版

NEC サポートポータル (Windows 対応版)

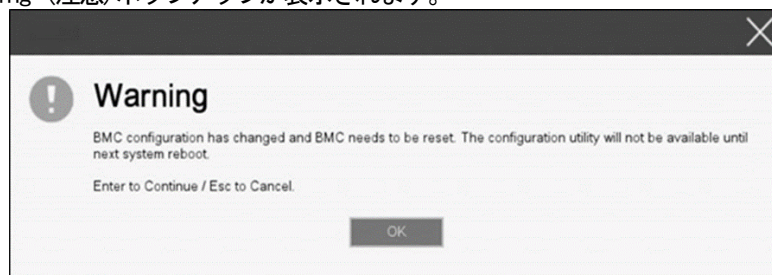
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809>

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

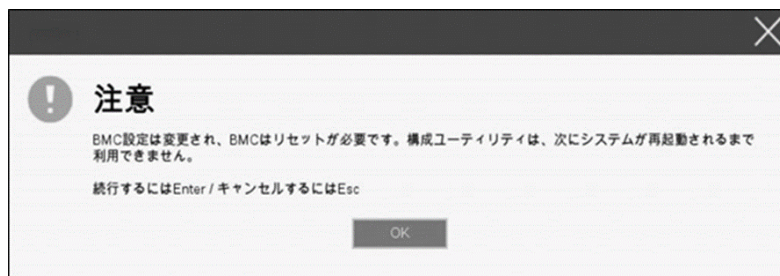
システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の(1)のポップアップが表示された場合は(2)以降の手順を厳守してください。

案内の手順に従って操作されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止、あるいは対象サーバに記録されている Serial Number、Product ID が消失する場合があります。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning (注意) ポップアップが表示されます。

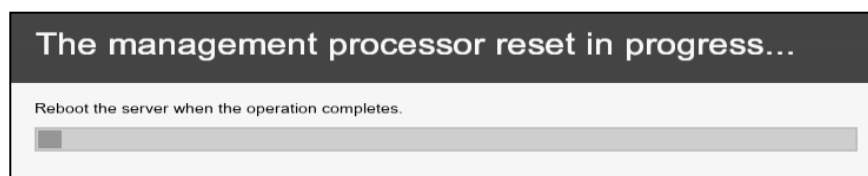


英語表示の場合



日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。
- (3) iLO の再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。
プログレスバーが表示されている状態で何も操作は行わず、必ず3分以上お待ちください。
もし、3分以内にプログレスバーが終了した場合においても、そのまま3分以上お待ちください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- (4) 3分以上経過後、以下を確認します。
- A. 本体操作時
対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
 - iLO が再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒 1 回)
 - iLO の再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
 - B. リモート (iLO Web インターフェイス) 操作時
対象サーバーにログイン画面が表示されていることを確認してください。
- (5) (4)において、iLO の再起動の完了を確認後、〈ESC〉キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ります。
- (6) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して再起動します。

● PCI カードの取り付けに関する注意事項

PCI カードを本装置に取り付ける際は、PCI スロットに差し込んだ後、PCI カード、または PCI スロット付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。
なお、工場出荷時に搭載されている PCI カードはネジで固定しています。

● Halted System due to SPDM (Security Protocol and Data Model) component authentication failure というメッセージが表示された場合の注意事項

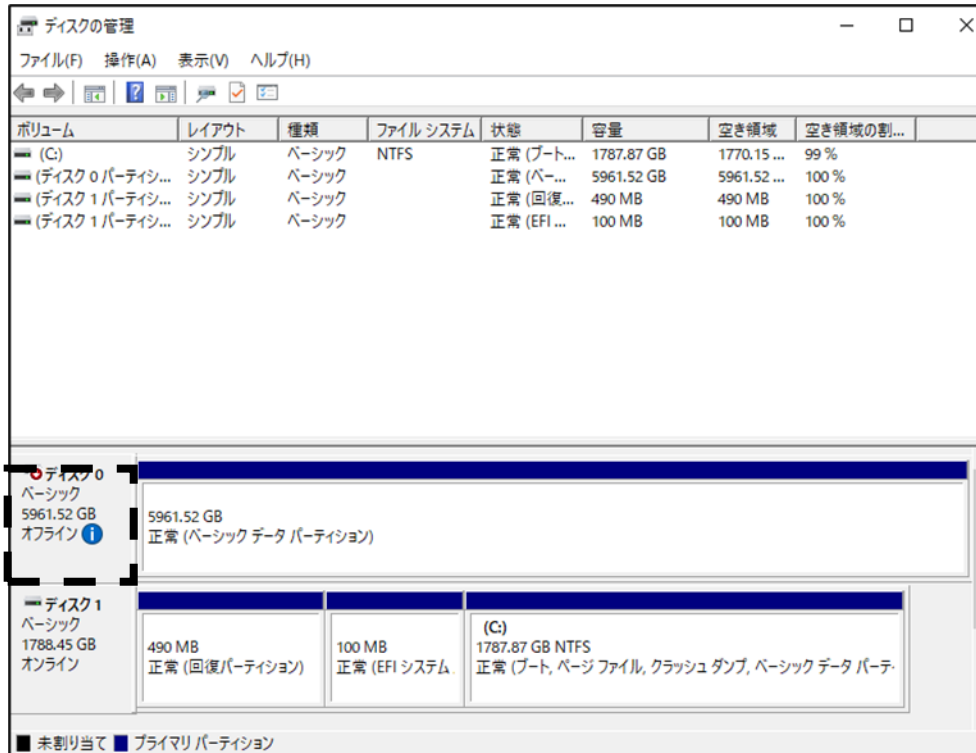
システムの再起動を頻繁に実行した場合、「Halted due to SPDM (Security Protocol Data Model) component authentication failure」というエラーが発生して、OS が起動しないことや、電源投入時のセルフテスト (POST) が完了しないことがあります。

この画面で停止した場合はシステムを再起動してください。

```
Halted system due to SPDM (Security Protocol and Data Model)
component authentication failure.
See IML and Security Log for details.
-
```

● N8803-057/057L/058/058L RAID コントローラご使用時の注意事項

- ・システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) 未満の場合、iLO Web インターフェイスの One-button セキュア消去レポートの位置 (Location) 情報が実際のドライブの搭載スロットと異なることがあります。One-button セキュア消去の動作は、正常に完了します。
消去結果は「成功」の表示でご確認ください。
- ・Windows 環境でファームウェア「03.01.23.072」を用いた N8803-057/057L と N8803-058/058L の混載している場合、もしくは N8803-058/058L を 2 枚以上搭載している構成の場合、Windows 起動時に OS がインストールされていないディスク (データディスク) がオフラインになる場合があります。尚、データ消失などは発生しません。

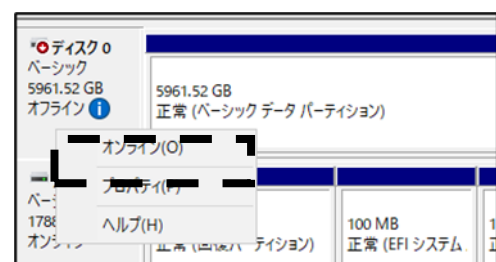


本事象が発生した場合は、下記手順を参考に、「ディスクの管理」よりディスクをオンラインに変更してください。

[ディスクの管理からオンラインに変更する方法]



- ① オフラインになっているディスクの点線で囲った部分を右クリック



- ② オンラインをクリック

■商標について

EXPRESSBUILDER、ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft (R)、Windows (R)、Windows Server (R)、は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel (R)、Xeon (R) は米国 Intel Corporation の登録商標です。

Linux (R) は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat (R)、Red Hat Enterprise Linux (R) は米国 Red Hat、Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

TEL : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

2025 年 3 月 第 2 版



CBZ-062368-001-02